



MUFG通信

2016年度中間期(2016年4月1日～2016年9月30日)

三菱UFJフィナンシャル・グループ

URL : <http://www.mufig.jp/>
証券コード : 8306



社長メッセージ

株主の皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

私から、2016年度中間期の業績および今後の取り組みについてご説明します。



▶ 2016年度中間期の業績について

2016年度中間期は、新興国を中心として世界経済が力強さを欠くなか、円高の進行やグローバルな低金利環境の長期化に加え、国内ではマイナス金利導入の影響により引き続き厳しいものとなりました。国内外で預貸金収益が減少したほか、運用商品販売も低調に推移した結果、業務粗利益は前年同期比で1,397億円減少の1兆9,694億円となりました。営業費は、全社的なコスト抑制努力に加え、為替影響もあり、前年同期比449億円減少しました。この結果、実質業務純益は、前年同期比948億円減少の7,254億円となりました。

与信関係費用総額は、前年同期比266億円増加の576億円となりました。以上により、経常利益は前年同期比1,750億円減少の7,948億円、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比1,087億円減少の4,905億円となりました。

経営の健全性を表す自己資本比率については、2016年9月末の普通株式等Tier1比率が12.20%と、現在の金融規制に照らして十分な水準を維持しています。また海外資産を含めた不良債権比率（貸出金に占めるリスク管理債権の比率）は1.47%と前年度末比0.01%増加しましたが、引き続き低い水準にあります。

こうした業績を踏まえ、2016年度中間期の配当は期初予想通り9円とし、また1,000億円を上限とする自己株式取得の実施を決定しました。

▶ 持続的な成長に向けて

2016年度下期も、引き続きマクロ経済・市場環境の低迷やマイナス金利政策による超低金利状態の継続など、厳しい外部環境が続くものと予想されますが、私どもは、中期経営計画の基本方針で打ち出した「持続的なグループの成長に向けた進化・変革」を実現するために、「お客さま起点」、「グループ起点」、「生産性の向上」の3つのテーマを軸に、収益基盤の拡充に向けたビジネスモデルの変革を着実に推進してまいります。例えば、個人のお客さまに対しては、「貯蓄から資産形成」への取り組みを推進し、中長期的な視点でお客さまの資産形成に貢献します。企業のお客さまには、グループの総合力を発揮し真に付加価値のある提案を通じて、お客さまの経営課題解決をサポートします。さらに、海外を中心に手数料収益を引き続き強化し、資産や資本の効率性向上をめざしてまいります。また、セールス&トレーディング業務*で進めている銀行・証券の一体運営態勢の本格稼働により、より質の高いサービスをワンストップで提供してまいります。同時に、徹底した経費の抑制・削減努力を含め、国内外で収益性や効率性を強く意識した各種取り組みを進めることで生産性の向上を追求してまいります。

私どもにとって逆風が吹く環境下でこそ、原点に立ち返ってこれを乗り越え、「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」の実現に向けて変革への挑戦を続けてまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

* 為替・デリバティブなどの金融商品・ソリューションをお客さまに提供するセールス業務と、銀行間取引や取引所などで市場性商品の売買を行うトレーディング業務の総称

2016年12月
取締役

代表執行役社長 グループCEO

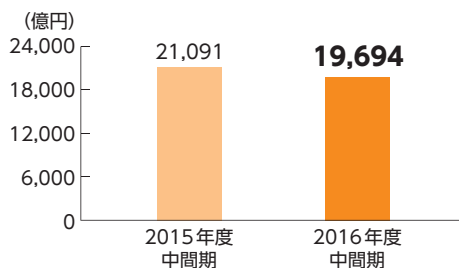
平野信行

2016年度中間期決算ハイライト

✓ 決算のポイント

- 親会社株主に帰属する中間純利益は、4,905億円と通期目標に対する進捗率は57.7%
- 貸出金は前年度末比で8.9兆円減少、預金は前年度末比で0.6兆円増加
- 普通株式等Tier1比率は、12.20%と十分な水準を確保

連結業務粗利益



前年同期比1,397億円減少しました。海外の預貸金・手数料収益等は増加しましたが、金利低下を受けた国内預貸金収益の減少と運用商品販売の減少に円高の為替影響が加わり減少しました。

与信関係費用総額*

前年同期比266億円増加しましたが、期初の想定を下回る実績となりました。

* 与信関係費用(信託勘定) + 一般貸倒引当金繰入額 + 与信関係費用(臨時損益) + 貸倒引当金戻入益 + 偶発損失引当金戻入益(与信関連) + 償却債権取立益

■ 損益の状況(連結)

● 連結業務粗利益(信託勘定償却前)	
営業費(△)	
連結業務純益(一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前)	
● 与信関係費用総額(△は費用)	
経常利益	
親会社株主に帰属する中間純利益	

■ 資産・負債の状況(連結)

資産の部合計	
貸出金(銀行勘定)	
有価証券	
うち国債	
負債の部合計	
預金	
純資産の部合計	

■ 自己資本の状況(連結)

普通株式等Tier1比率	
Tier1比率	
総自己資本比率	

(単位: 億円)

2015年度中間期 (2015年4月~9月)	2016年度中間期 (2016年4月~9月)
21,091	19,694
12,889	12,440
8,202	7,254
△310	△576
9,699	7,948
5,993	4,905

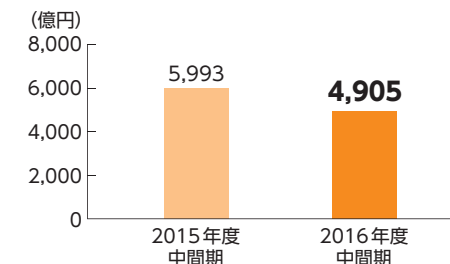
(単位: 億円)

2015年度末	2016年度中間期末
2,983,028	2,936,771
1,137,563	1,048,448
699,938	649,084
283,571	255,158
2,809,161	2,771,756
1,609,650	1,616,250
173,867	165,015

営業費

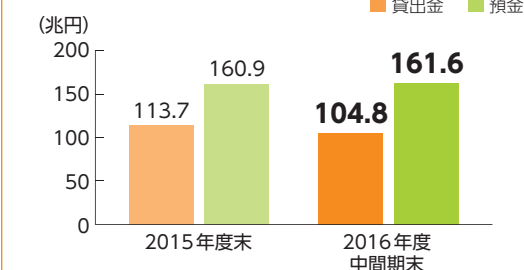
為替影響もあり前年同期比449億円減少しました。

親会社株主に帰属する中間純利益



前年同期比1,087億円減少し、4,905億円となりました。

貸出金・預金



貸出金残高は、政府等向け貸出の減少、為替影響による国内外の外貨建貸出減少を主因に前年度末比8.9兆円の減少となりました。預金残高は、国内預金が増加し、前年度末比0.6兆円の増加となりました。

自己資本比率(バーゼルⅢ)

普通株式等Tier1比率*は、12.20%と引き続き十分な水準を維持しています。

* 普通株式等Tier1比率 = 中核的な自己資本(資本金・剰余金) ÷ リスク・アセット

(注) 業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。

クローズアップ

MUFGは最先端技術を活用した金融イノベーション(革新)の実現をめざすとともに、その成果を安全かつ便利なサービスとしてお客さまにお届けできるよう、さまざまな取り組みを行っています。

ここではICT(情報通信技術)戦略の最近の取り組みについてご紹介します。

CEATEC JAPAN 2016へ出展

MUFGは、2016年10月に幕張メッセにて開催された「CEATEC JAPAN 2016」に参加しました。

このイベントは、金融関係者やFintech*1関係者のみならず多くの方が来場されるアジア最大の国際展示会で、MUFGは、『Fintechを活用した未来の金融サービスのかたち』をコンセプトとしたブースを出展しました。

ブースでは、注目されているAI(人工知能)を活用し会話形式でお客さまの質問に回答する三菱東京UFJ銀行のスマートフォンアプリ「バーチャルアシスタントMAI & MAIQ」をはじめ、グループ各社から合わせて14のサービスを展示しました。多くの来場者の方々にMUFGのデジタルイノベーションに関する最先端の取り組みを知っていただく機会となりました。

*1「金融(Finance)」と「技術(Technology)」を合わせた造語。ビッグデータやAIなどの最新技術を駆使した金融サービス



「CEATEC JAPAN 2016」ブースの様子



「バーチャルアシスタントMAI」取引画面イメージ

また、2016年3月に邦銀初として立ち上げた「MUFG Fintech アクセラレータ・プログラム*2」の成果として検討が進んでいるサービスについても紹介されました。

例えば、決算関連資料のデータを解析し、独自の分析アルゴリズム(計算方法)と自然言語処理により、短時間で投資判断の参考となる決算分析レポートを作成するサービスや、マーケット情報を解析し、最適なタイミングで外貨積立預金ができるAIを利用したツールなどが注目を集めていました。これらはサービス実用化に向けた準備が着々と進められています。



*2「MUFG Fintech アクセラレータ・プログラム」は、新たにFintech事業への参入をめざす企業に対し、MUFGが事業化に向けたステップを全面的にサポートする4カ月の集中支援プログラムです。

スマートフォンアプリ「スマート口座開設」がスタート

2016年9月、三菱東京UFJ銀行は公式スマートフォンアプリ「スマート口座開設」の取扱いを開始しました。

従来はご来店や郵送でお申し込みが必要だった口座開設が、スマートフォンと本人確認書類(運転免許証または個人番号(マイナンバー)カード)があれば、いつでもどこでも簡単に可能となりました。

本アプリからお申し込みいただく口座は、印鑑の届出が不要な「印鑑レス(印鑑不要)口座」となり、開設後も印鑑なしでお取引が可能です*3。全国の本支店窓口でのお取引に対応した印鑑レス口座は、本邦初の取り組みとなります。

*3 一部サービスは印鑑の届出が必要です。



社会とともに

MUFGは環境リスクに配慮した企業の調達支援、ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した投資運用の推進など、長期的な視点でお客さまと社会の健全な成長につながる取り組みを実施しています。

再生可能エネルギーの推進と普及

MUFGでは豊富な実績とノウハウならびに国内外に広がる拠点網を活かし、太陽光・風力・地熱発電などのプロジェクトファイナンスのアレンジや融資を通じて、世界の再生可能エネルギーの普及に貢献しています。

2015年には再生可能エネルギー事業に関連したプロジェクトファイナンスのリードアレンジャー世界ランキングで2位となりました。



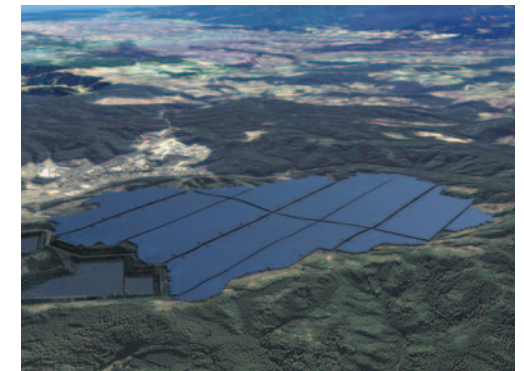
2015年再生可能エネルギー部門におけるプロジェクトファイナンス・リーグテーブル

順位	企業	金額(百万米ドル)	シェア(%)
1	Banco Santander	3,158.5	6.26
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,639.1	5.46
3	KFW	2,356.2	4.87
4	三井住友フィナンシャルグループ	1,884.6	3.90
5	Rabobank	1,881.8	3.86
6	みずほフィナンシャルグループ	1,560.9	3.23
7	Nord/LB	1,510.2	3.12
8	BNDES	1,461.9	3.02
9	HSBC	1,272.7	2.63
10	ING	1,127.0	2.33

出典：Bloomberg New Energy Finance

ファイナンスの事例

三菱東京UFJ銀行は、GEエナジー・フィナンシャル・サービスとパシフィコ・エナジー株式会社が共同出資する宮崎県の太陽光発電事業に対し、プロジェクトファイナンスをアレンジしました。本発電所は2018年春に商業運転を開始する見込みで、発電容量は96.2MWと一般家庭3万世帯分の年間電力消費量に相当し、年間6万8,200トンのCO₂排出量削減が期待できます。



パシフィコ・エナジー細江メガソーラー発電所（宮崎県宮崎市）

赤道原則に基づく環境・社会リスク評価・管理

三菱東京UFJ銀行は、インフラ・資源開発などのプロジェクトの環境・社会への影響を特定・評価する枠組みである赤道原則を2005年に採択しています。

赤道原則とは、民間金融機関が中心となり、大規模プロジェクトに起因する環境・社会に対するリスクと影響を、資金の貸し手または資金調達に関するアドバイザーとして、お客さまと協力して体系的に特定・評価し、管理するために策定した枠組みです。赤道原則を採択した金融機関は、プロジェクトへの融資に係わる環境・社内リスク管理のための社内方針や手続きに赤道原則を組み入れており、同原則を遵守しない、または遵守できないプロジェクトに対しては融資を行いません。

2016年8月末現在、世界で84の金融機関が赤道原則を採択しています。三菱東京UFJ銀行は、赤道原則を採択した金融機関で構成される赤道原則協会の運営委員会メンバー12行のうちの1行として選出されており、国内外で赤道原則の運用や普及に向けた活動を積極的に行っています。



MUFGグリーンボンドの発行

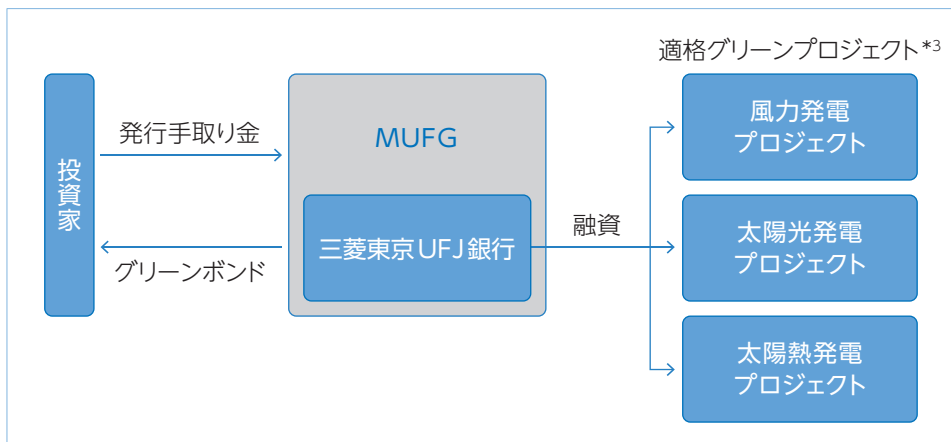
MUFGは2016年9月に、国際的な金融規制(TLAC規制)*1に対応する環境債(グリーンボンド)を世界で初めて発行しました。

グリーンボンドとは、債券の発行手取り金の資金使途が、再生可能エネルギーや省エネルギー事業等、地球環境への貢献が期待されるプロジェクトに限定されている債券です。

近年、安定した投資収益を獲得するため、業績見通しや財務情報だけでなく、環境への配慮や人材の多様性といった「ESG(環境・社会・ガバナンス)」や「SRI(社会的責任投資)」などの非財務情報を考慮する投資活動が世界的に広がっています。

そのようななか、グリーンボンド市場は「グリーンボンド原則」の制定により標準化が進められ、急成長を遂げています。海外では世界銀行などの公的機関のみならず多くの民間企業が発行しており、国内でも注目が高まっています。

MUFGが今回発行したグリーンボンドは、TLAC規制に対応する債券としては世界で初めて発行されたもので、発行額の約6割超をグリーン投資家*2の方々にご購入いただきました。発行手取り金は、三菱東京UFJ銀行による融資を通じて持続可能な環境・社会の実現に資するプロジェクトの支援に利用されます。



*1 Total Loss-Absorbing Capacity (総損失吸収力)の略であり、グローバルに活動する国際金融グループ(G-SIBs)に適用される資本規制の一種。破綻した場合に公的資金を使って救済しなくても済むように、銀行は資本や社債の積み増しが求められます。

*2 企業の財務面のみならず非財務面も考慮して投資を行い、グリーンボンドを積極的に購入する投資家。

*3 赤道原則に則り環境・社会影響レビューを実施し適格性を認定した再生可能エネルギープロジェクトにより構成。

MUFGグリーンボンドフレームワーク

MUFGグリーンボンドは、国際資本市場協会が公表するグリーンボンド原則の4つの柱に沿ってMUFGが策定したフレームワークに基づき発行しています。同フレームワークは、第三者認証機関によるオピニオンを取得しています。

1. 資金使途

子会社である三菱東京UFJ銀行を通じて、適格グリーンプロジェクトに充当されています。

2. プロジェクトの評価および選定プロセス

定められた基準に従い、資金充当の対象となる適格グリーンプロジェクトを選定しています。

3. 資金管理

発行手取り金を適格グリーンプロジェクトに充当しているか、継続的にモニタリングを実施します。

4. 報告

資金充当状況と一定の前提に基づき算出される環境インパクト(年間発電量、二酸化炭素排出削減効果)を原則年1回*4ホームページで公表する予定です。

*4 資金充当状況については、発行手取り金が適格グリーンプロジェクトに全額充当された後、その充当状況に変更がない場合、年1回の公表を見送る可能性があります。



MUFG株主セミナー開催のお知らせ

MUFGでは、日頃ご支援いただいている株主さまを対象に、下記のとおりセミナーを開催いたします。なお、当社株式を長期に保有いただいている株主さまへの感謝として、ご応募いただいた方のうち、当社株式を5年超保有*の株主さまの当選倍率を通常より2倍に優遇させていただきます。

*中間期末日および期末日の株主名簿に連続11回以上記載

1 動画配信

セミナーの様子を当社ホームページにて公開します。詳細は以下をご覧ください。

- ▶ **リンク先情報**
当社ホームページ内『動画配信』(<http://www.muftg.jp/investors/movie/>)
- ▶ **ユーザー名** ▶ **パスワード**
muftg 201703

2 開催概要

募集対象者 …………… 2016年9月末時点で当社株式をお持ちの株主さま
(ご同伴は1名さままで可)
参加費 …………… 無料


① 経済セミナー(東京・大阪・名古屋)

開催日 募集人数	【東京】東京都千代田区	2017年3月13日(月)	各回380名
	【名古屋】愛知県名古屋市中区	2017年3月15日(水)	各回150名
	【大阪】大阪府大阪市中央区	2017年3月24日(金)	各回200名
時間	[午前の部] 10:30 ~ 12:00頃 [午後の部] 14:00 ~ 15:30頃		
開催場所	各地域のグループ会社または外部の会議室		
内容	テーマ:「内外の経済・金融を展望する」(仮題) 講師:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 研究理事 五十嵐 敬喜氏		



五十嵐 敬喜氏

② 相続セミナー(東京)

開催日 募集人数	2017年3月22日(水) 200名	
時間	19:00 ~ 20:15頃	
開催場所	東京都千代田区内の会議室	
内容	テーマ:「身近な相続対策」(仮題) 三菱UFJ信託銀行の主任財務コンサルタントが事例を交えて解説します。	

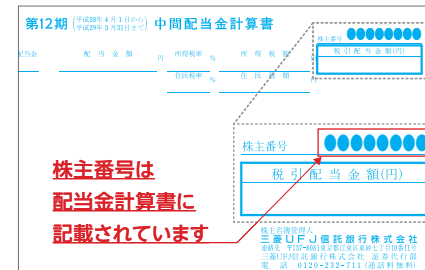
3 応募要領

応募方法: 同封の「MUFG株主セミナー参加申込書」に必要事項をご記入の上、ご投函ください。

締め切り 2017年1月4日(水) 消印有効

ご記入要領

- ご希望のセミナーおよび開催日時を**いずれか1つ**選択してください(複数選択、無選択は無効)。
- 株主さまのご住所、お名前(ふりがなを含む)、お電話番号、株主番号(同封の「配当金計算書」または「配当金領収証」の右上8桁の番号)をご記入ください。
- ご同伴者さまがいらっしゃる場合は、その方のご住所、お名前(ふりがなを含む)もご記入ください。
- 個人情報保護シールをはがし、折り曲げてしっかりと貼り付けてご投函ください。



抽選の上、当選された株主さまには2017年2月中旬にご招待状をお送りいたします。

◎ご注意◎

- 当日の受付時刻および場所等の詳細につきましては、当選された株主さまのみにご案内いたします。
- 開催場所までの往復の交通費は各自でご負担いただきます。
- 応募時に必要事項の**記入漏れ**があった場合には、**無効**となりますのでご注意ください。
- やむを得ない理由で中止や内容変更となる場合がございます。

お問い合わせ先: 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

MUFG株主倶楽部
専用デスク 0120-321-629
(通話料無料)

代表電話 03-3240-8111
(通話料有料)

受付時間: 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00

会社情報 / 株式情報

取締役・執行役 (2016年9月30日現在)

取締役	取締役	執行役	執行役
取締役 園 潔	取締役 島本 武彦	代表執行役 園 潔	執行役専務 荒木 三郎
取締役 長岡 孝	取締役* 川本 裕子	代表執行役 副会長 長岡 孝	執行役専務 三毛 兼承
取締役 池谷 幹男	取締役* 松山 遙	代表執行役 副会長 池谷 幹男	執行役専務 徳成 旨亮
取締役 平野 信行	取締役* 岡本 園衛	代表執行役 社長 平野 信行	執行役専務 吉川 英一
取締役 黒田 忠司	取締役* 奥田 務	執行役専務 村林 聡	執行役専務 濱本 晃
取締役 徳成 旨亮	取締役* 川上 博	執行役専務 岡本 純一	執行役専務 安田 正道
取締役 安田 正道	取締役* 佐藤 行弘	執行役専務 廣田 直人	執行役専務 村上 敦士
取締役 小山田 隆	取締役* 山手 章	執行役専務 黒田 忠司	執行役専務 吉藤 茂

*取締役のうち、川本 裕子、松山 遙、岡本 園衛、奥田 務、川上 博、佐藤 行弘、山手 章の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

株式事務のご案内

定時株主総会基準日	3月31日
定時株主総会	6月下旬
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 / 中間配当金 9月30日
公告掲載方法	当社の公告は電子公告により行っております。 電子公告掲載URL : http://www.mufig.jp/ ただし、やむを得ない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
上場証券取引所	東京、名古屋、ニューヨークの各証券取引所
株式事務取扱場所	株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)
	事務取扱場所
	お問い合わせ先・郵便物送付先

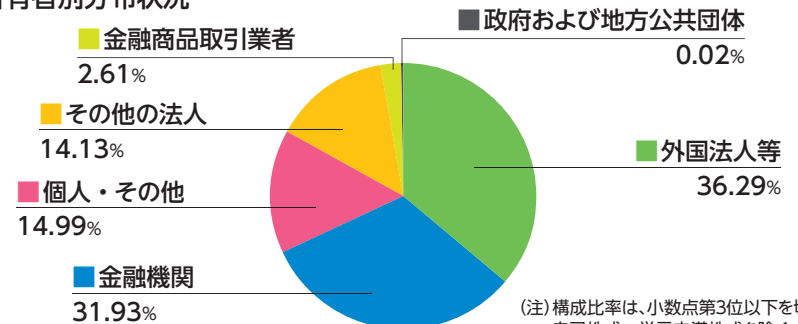
■ 株式に関するお手続き

住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定、買取請求その他各種お手続き	<ul style="list-style-type: none"> 証券会社の口座に当社株式が記録されている株主さま原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、お取引の証券会社等にお問い合わせください。 特別口座に当社株式が記録されている株主さま上記三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
未受領配当金の支払	三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

株式の状況 (普通株式) (2016年9月30日現在)

■ 株式の状況	発行済株式の総数	14,168,853,820 株
	株主数	810,581 名

■ 所有者別分布状況



■ 大株主

順位	株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	715,072,800	5.25
2	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	574,194,700	4.22
3	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	266,439,798	1.95
4	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	217,586,500	1.59
5	THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10 (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	192,028,484	1.41
6	日本生命保険相互会社	182,072,553	1.33
7	THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITORY BANK FOR DR HOLDERS (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	180,670,653	1.32
8	STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	177,549,052	1.30
9	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(明治安田生命保険相互会社・退職給付信託口)	175,000,000	1.28
10	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	164,057,100	1.20

(注) 1. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
2. 普通株式の持株比率は、自己株式564,369,120株を除いて算出しております。
3. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(明治安田生命保険相互会社・退職給付信託口)につきましては、明治安田生命保険相互会社が退職給付信託として信託設定している普通株式であり、その議決権行使の指図権は明治安田生命保険相互会社が留保しております。

■ 中長期的にめざす姿

世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ
—Be the world's most trusted financial group—

1. お客様の期待を超えるクオリティを、グループ全員の力で

お客様視点を中心に、グローバルに変化する多様なニーズを逸早くとらえ、グループ全員の力で応えていく。社員一人ひとり・一社一社が専門性を極め、グループ一体となって連携・協働し、世界水準のトップクオリティを追求する。

2. お客様・社会を支え続ける、揺るぎない存在に

変化の激しい時代においても、お客様の資産を守り、日本社会と世界経済の健全な成長を支える。一人ひとりが築く信頼と、グループ全員で作る強固な経営基盤で、最も信頼される頑健な存在であり続ける。

3. 世界に選ばれる、アジアを代表する金融グループへ

これまで培ってきた強みを活かし、日本はもとより、アジア、そして世界においても選ばれる存在となる。多様化・ボーダレス化する社会で、変化へ積極的に対応し、一人ひとりが成長・活躍できる組織として進化を続ける。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1

電話03(3240)8111(代表)

URL : <http://www.mufg.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター
電話:0120-232-711(通話料無料)
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

2016年12月発行

本誌はFSC® 認証紙、植物油インキを使用しています。

